

# 中国経済のクラクリ

「ゼロコロナ失敗」に映る  
衰退へのカウントダウン

2022/12/08

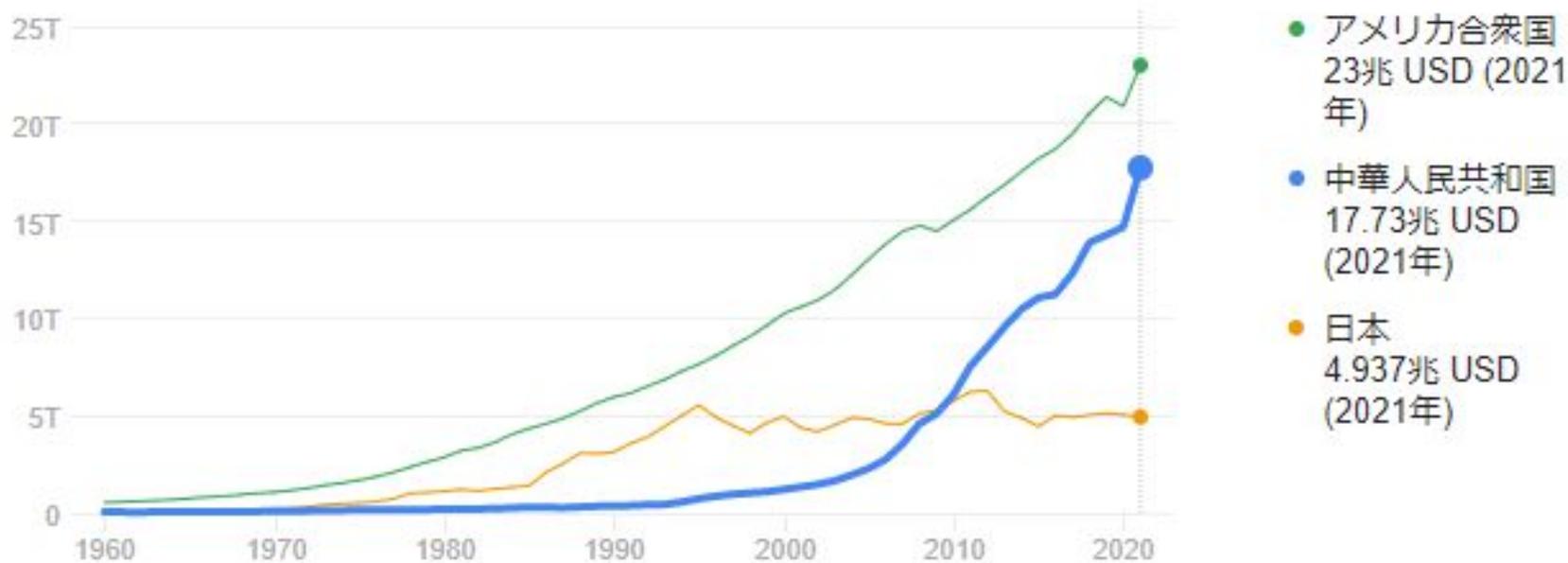
# 1. NO ZERO COVID

The initial success of China's zero-Covid policy and Xi's personal attachment to it makes it impossible to change course.

READ THE RISK 



# GDPは2010年に日本を追い越し、 2028年には米国を追い越す



# 成長要因①:文化大革命からの復興と改革開放



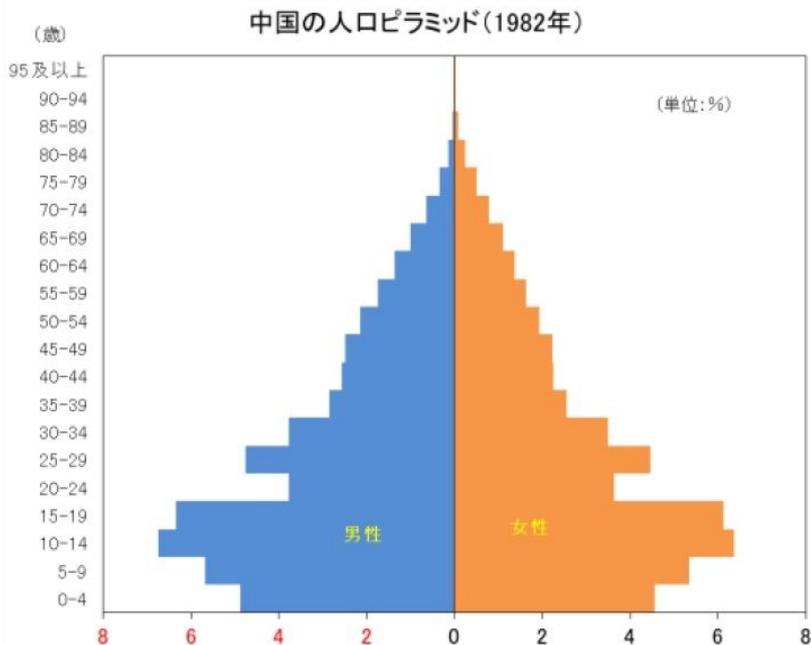
文化大革命  
1966～1976年

改革開放  
1978年～

毛沢東への回帰？  
2012年～

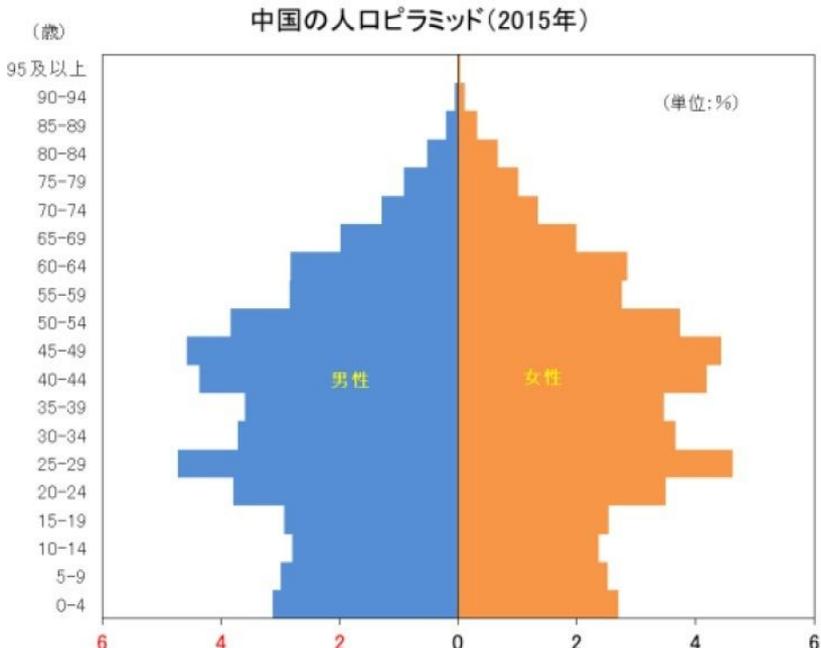
# 成長要因②:人口ボーナスと外国資本

(図表-2)



(資料)CEIC(出所は中国国家统计局)

(図表-3)



(資料)CEIC(出所は中国国家统计局)

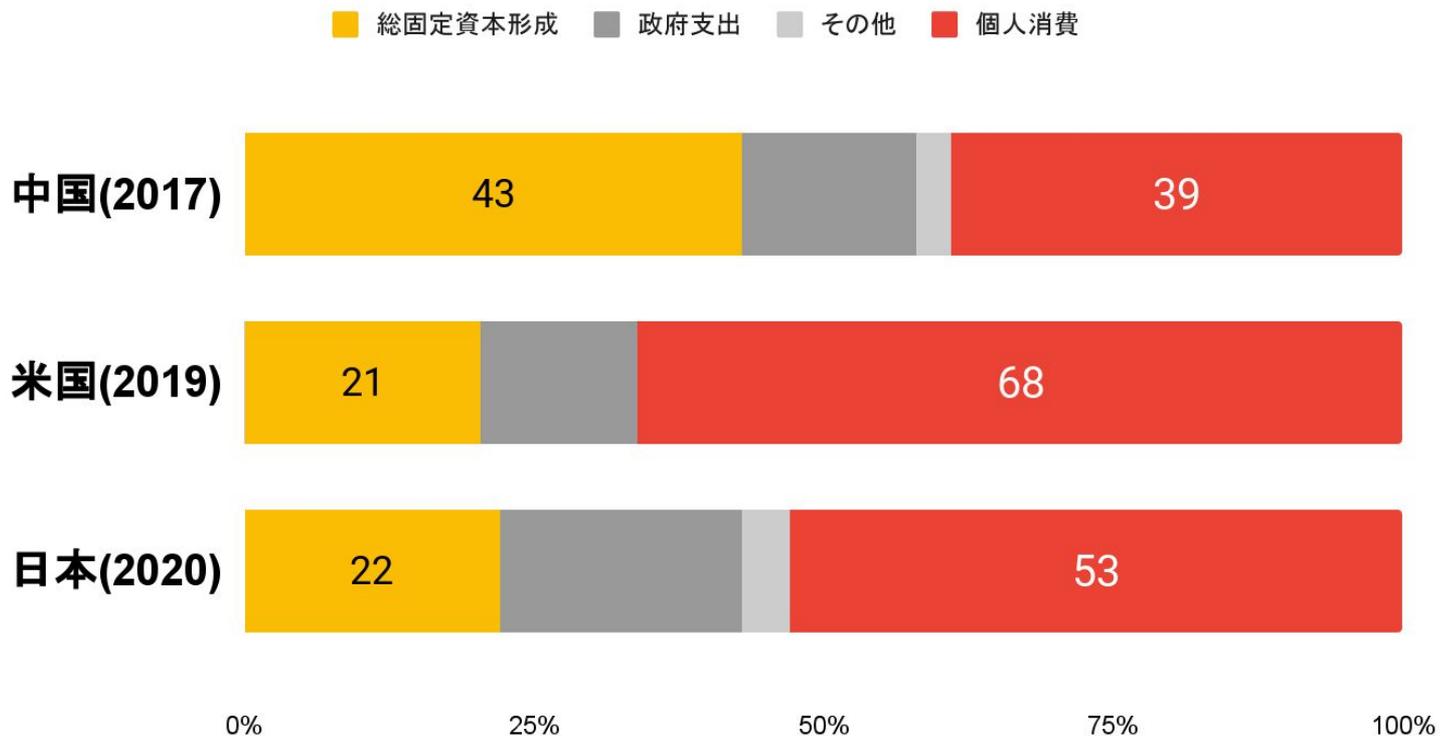
## 成長要因③: 不動産を軸とする資本形成

↓ 荒野の中に忽然と現れる高層ビル群



← 上海の  
「億ション」

# 【参考】GDP内訳



# これからの見通し

## 改革開放

- 習近平氏の根本にある「鄧小平への復讐と毛沢東礼賛」
- 米国に睨まれ、国内成長企業は潰す
- 経済に強い李克強を権力から排除

## 人口問題

- 一人っ子政策が始まったのが1979年（現在の43歳以下）
- 人口数の減少のみならず「小皇帝」化
- 高学歴でも望む仕事につけない「寝そべり族」台頭

## 不動産

- 「消費主導」への転換に失敗
- バブル崩壊は時間の問題、裏にあるのは債務問題
- 富裕層の没落

## 【参考】寝そべり族



## 「ゼロコロナ政策失敗」で習近平政権への影響

- 「失敗」というほどではなく、緩和で不満は和らぐ
- 習近平政権に対する支持はなお高い → **転覆は困難**
- ゼロコロナ政策が続けば、**外国企業の「中国離れ」**加速
- 企業に対する締め付けや労働者の意欲低下で**国内経済衰退**
- 次に芽が出るとしたら、**衰退や大混乱**を経た後

# すでに起こった未来



ピーター・ドラッカー (1909-2005)

